

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立東稜高等学校 】

<スポーツ庁テーマ>

1 実践テーマ	【 I II III 】
2 実施対象者	第1学年38名 総合的な探究の時間『スポーツ探究』選択者
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な探究の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	新たなパラゲームを考え出す過程で、公平性や平等性の観点からパラリンピックやパラアスリートへの理解を深め、自身が取り組んでいるスポーツや生涯スポーツへの興味関心が高まることを期待する。
5 取組内容	第1学年総合的な探究の時間（本校ではスポーツ探究・ライフワーク探究・サイエンス探究・コミュニケーション探究・ソーシャル探究・データ探究の全6コースに分類する）の内、スポーツ探究を選択した生徒を対象とし、生徒が新しいパラゲームを考案し、実践発表する取組を行った。 前期クール全6回、後期クール全6回で行う。今回は前期クールに該当する。 <u>10/16【1回目】オリエンテーション</u> ①パラリンピックの概略説明 ②探究活動内容説明 ※どんなハンディキャップを想定したパラゲームにするのか、そのハンディキャップを想定した安全なルールを作ることができるのか、また誰もが一緒に楽しめるかつ競技性も確保できるのかなどのポイントの説明。

※実際のパラゲームの例を動画で視聴し、イメージをもつ。

③グループ作り（6～7人グループ×6班）



オリエンテーションの様子

10/30【2回目】グループ活動

①グループのメンバー各自が持ち寄った案をまとめ、グループで1つのパラゲームを考案する。

※基本的には学校にある器具や道具を使って行うという条件の中で、新たなパラゲームの名称や基本となるルールを策定する。

※体育館で実施できるルールや物品を考える。



グループ活動の様子

11/6 【3回目】グループ活動

①具体的な内容の検討（分担や必要なものなど）

※グループで考案したパラゲームを実際に行ってみる。その中で出てきた課題や改善点を再度グループで検討する。特に安全面は配慮できているか、ルール通りに行えているか、必要な物品を確保できるかなどを検討する。

11/13 【4回目】リハーサル（発表準備+修正）

①前回の活動時の課題や改善点を踏まえ、パラゲームの最終確認を行う。発表順の決定や発表方法の説明を行う。



ブラインドサッカーを参考にした簡易ゲームのリハーサル

11/20 【5回目】実践発表

3グループ発表（1グループにつき10分）



目隠しゴルフの実践

12/11【6回目】実践発表

残り3グループ発表（1グループにつき10分）



投げたディスクにボールを当てるゲーム

6 主な成果

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今回は講師をお招きしてのオリパラ教育講演会は実施できなかったが、第1学年総合的な探究の時間を使い、新たなパラゲームを考えるという取り組みのたたき台ができたことは成果と言える。
- ハンディキャップの想定は一定できていたように感じる。パラアスリートへの理解や、自身の生涯スポーツへの気づきとしてはよかった。
- 「実践発表」という形をとることで、総合的な探究の時間の発表の場を確保した。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)

- グループ決めのときに、『クラスや男女を分ける必要がない。』という文言を強調することで、パラゲームは誰でも一緒に楽しめるものであるという意識付けをした。
- 実践発表の方法は、発表グループが違うグループにパラゲームを教えながら行わせる、という形を取った。例えばグループ1とグループ2をペアとし、グループ1のパラゲームの内容をグループ2がプレイする。グループ3～6はその様子を評価し、別途配布のチェックシートに記入していく。こうすることで、ただ単に全体の前でパラゲームを実践して終わりというものではなく、他のグループに指示を出したり、ルールを教えたりするなどの運営の難しさ、伝えることの難しさを感じさせ、グループ内での役割分担を明確にすることで、それぞれの責任を意識させた。

8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • ハンディキャップを想定したルールの中で、プレーの失敗に対して笑いが起こったり、力任せにプレーで安全面が軽視される場面があった。実際にパラアスリートのプレーを見て笑ったりしないことと、安全なルールの中で全力を出すことは競技として大切なことだが、いわゆる“ノリ”で行ってもよいということにはならないということを強調する必要がある。 • 第1回目のオリエンテーションで実際のパラゲームの動画を視聴した上で新たなパラゲーム作成に取りかかっているが、生徒の実態から難易度が高いように感じられた。6グループのうち、パラゲームらしい形となったのは3グループだった。 • 実践発表後の各個人の振り返りやグループ内での振り返りの時間が不足してしまった。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • 例年は、第2学年普通科キャリアコースライフスポーツクラスの生徒を対象にスポーツ栄養学の講演会を、講師をお招きして行っていた。来年度以降はコロナ感染の状況を鑑みて決定していく。